

個人情報の公開に無防備な子どもたち

ネットパトロールの際、SNSなどに個人情報を載せている子どもたちをよく見かけます。しかし、インターネットの情報は誰も見ることができるため、個人情報を載せていると思わぬ事件やトラブルに巻き込まれてしまうかもしれません。

よく見られる個人情報

実際によく見られるのが、SNSなどのプロフィール欄に自身の個人情報を書き込んだものです。SNSなどのサービスには、自己紹介をすることができるプロフィール欄があります。そこに、フルネームや学校名、顔写真などの個人情報を載せている子どもたちが多くいるのです。

またその他には、文化祭や体育祭などの学校行事のときや、遊びにでかけた際に友達と一緒に撮った写真を、顔がはっきりと分かるままインターネットに載せているものをよく見かけます。中には制服や体操服、部活動のユニフォームを着たまま撮影しているものもあり、そこから学校名や部活動などが判明してしまうケースもあります。

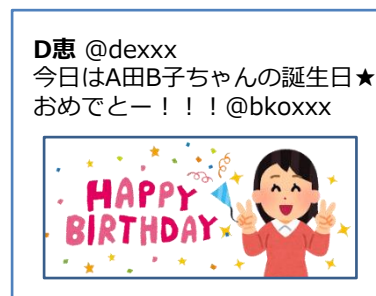


断片的な情報から個人を特定できる

「個人情報を書き込まないように気を付けているから大丈夫」と思っている子どもたちも多いかもしれませんが、だからといって安心はできません。投稿した写真やインターネット上での友達とのやりとりなどの中に、個人特定につながる情報が含まれていて、意図せずに個人情報が漏れているかもしれません。

具体的には、以下のようなものです。

- ・写真に写りこんだ宅配便の伝票から住所が判明
- ・友だちとのやりとりから学校、学年、部活動が判明
- ・友だちの投稿から、フルネームと顔が判明



これらの断片的な情報を組み合わせると、「〇〇に住む△△中学校2年生テニス部のA田B子」ということが分かります。

インターネットに個人情報を載せていると、つきまといやなりすましの被害にあったり、不適切な投稿をしてしまった際に、その投稿とあわせて個人情報を拡散されたりする可能性があります。子どもたちにはそうしたことを正しく理解させ、インターネットに投稿をする際は、自身や他者の個人情報が含まれていないか確認するよう指導することが大切です。